

## 平成19年度 第1回山梨県考古博物館協議会議事録

開催日時：平成19年11月7日（水）午前10時～11時30分

開催場所：風土記の丘研修センター

出席者：花輪委員、李委員、大隅委員、椎名委員、富山委員、谷口委員、吉原委員、  
福田委員、北原委員、長谷川委員、三枝委員

事務局：館長、副館長、次長、学芸課長、学芸課員、総務課員

### （協議会の成立）

山梨県附属機関の設置に関する条例第6条第2項の規定により、出席委員が定足数に達したため協議会は成立。（15名中11名出席、委任状提出3名）

### （議事）

- （1）平成19年度考古博物館 経過事業について
- （2）平成19年度考古博物館 予定事業について

### （質疑等）

#### （委員）

- ・さまざまな企画を実施し、統計で見ても下降の入館者数が上昇しているので嬉しい。
- ・特に、岡島百貨店を会場とした「夏休み縄文体験教室」や、アイメッセを会場とした「夏休み自由研究プロジェクト」など外に出てイベントをしたことはたいへん結構。
- ・考古博物館は地の利が悪いが、外に出て行って考古ファンを増やせば入館者の増加につながる。

#### （委員）

- ・今年度は、場所は考古博物館から出て行き、時期は夏休みということで多くの参加者を集めた。考古博物館は変わってきている。
- ・拠点は考古博物館だが中心街街へ出て行くべき。中心街ならば参加しやすい。時期は夏休みをターゲットとして集客を伸ばすべき。
- ・山梨県内だけでなく東京や神奈川にアピールしていくことも必要。
- ・イベント等の参加者が増えているようなので、入館者数だけでなくイベント参加者数についても資料があればよい。

#### （会長）

- ・数字に表れていない参加者数が相当ある。数字に表していけばアピールとなる。

(委員)

- ・考古博物館や県立博物館には、高校生の歴史に関する研究成果の発表へ協力をお願いしたい。
- ・インターンシップやボランティア活動に対するご配慮もお願いしたい。

(委員)

- ・外へ出て行く事業がかなり見られる。それが考古博物館のPRとなり、その参加者が考古博物館に足を運んでくれればいい。
- ・高校では、放課後に教師と生徒とが近隣の施設を訪問し体験する機会を設けている。高校との距離の問題もあるが、その際には受け入れについて協力をお願いしたい。
- ・経営上の問題もあるが、小中高生の入館料金を下げていただければありがたい。

(委員)

- ・知恵を絞って事業をしていることに敬意を表す。開催中のナスカ展もすばらしい、何年かに一度このような展示を開催したら考古博物館のステイタスや知名度が上がる。
- ・前回の会議でお願いした「4館共通パスポート」について実現していただいた。非常に来館しやすくなった。
- ・精進湖線から研修センターに来るとき道に迷う。特に初めてだと必ず迷うと思う。案内や標識等の整備をお願いしたい。

(委員)

- ・ナスカ展はとてもよい、たくさん入館者があると思う。場所がもう少し広くてゆったりみることができたらなおよい。
- ・10月14日に熱気球が見えた時には、是非行ってみたいと引きつけられた。桜や紅葉などのシーズンごとにこのような企画したら考古博物館のアピールになる。

(委員)

- ・今年度の事業は成功している。すべての事業をナスカに結びつけるスジの通った企画で成果をあげた。県民の考古学や世界遺産に対する理解を深めることになった。
- ・マスメディアやイベントと結びつけて事業の推進を図るとよい。
- ・考古博物館の中にとどまらず外へ出ていくことも必要。科学館のイベントとタイアップすることなどでも道が開けるのでは。

(委員)

- ・風林火山は12月いっぱい終わる、来年は何をやるかが問題。
- ・県立博物館から考古博物館を経由していくのが良い。

- ・考古博物館を印象づけるために協力していきたい。考古博物館をアピールするためには何を行ったらよいのか、どんなテーマなのか、例えば富士山とか、そういったことを考えていきたい。

(委員)

- ・入館者数がすべての面で増加している。去年までとは違う。将来の展望が開けてきた。
- ・今年は風林火山博やナスカ展があったが、普通の時にどうやっていくかが課題。
- ・年に一度、決まった時期にイベントなどがあるとメディアも取り上げやすい。縄文王国をどうやって育てていくかが課題。縄文を知るにはこのイベントに行けばいいというものに育てるといい。
- ・夏休みにイベントで種をまき、年明けの「私たちの研究室」につなげることが必要。研究に対してサポートをしていくのがよい。
- ・考古博物館は公共交通によるアクセスが悪い。タクシーも呼びづらい。博物館のバス停にはタクシー会社一覧表がある。県立博物館と考古博物館とを1日で見学したいものの、両者をつなぐアクセスがない。インフラ整備は今後の課題。

(委員)

- ・考古博物館では、館収蔵資料を用いたタッチ&トークという事業を行っているが、都留にもたくさん出土品がある。小中学校での教材とか、活用方法を教えていただきたい。
- ・すでに実施している出前事業には感謝している。甲府だけでなく郡内でもさらに目を向けていただきたい。

(会長)

- ・考古博物館が目指す重要なことは、考古学に興味を持ってもらうこと。
- ・考古博物館の裏側を見せてあげることで考古学に興味のある子どもたちのサポートにもなるし、そういった人材がそれぞれの地域での活動の核となっていく。

(委員)

- ・交通の便が悪いということを甲府市などに陳情して解消することが必要。

(会長)

- ・交通アクセスの問題については過去にも話題となった。検討していきたい。

(事務局)

- 学校利用について  
県内においては校長会等の場で、考古博物館事業や活用メニューについてご案内してアピールしている。県外については、特に東京の学校への案内を進めている。
- 高校生の歴史研究発表への協力について  
小中学生を対象とした「わたしたちの研究室」事業を設けてきたが、高校生については今後先生方と協議していきたい。
- 教育課程での入館料について  
教育課程の観覧は免除規定がある。土曜日の小中高校生の観覧も無料となっている。これらの制度を十分に利用していただきたい。
- 案内標識について  
今後土木部とも打ち合わせていきたい。
- イベント等でまいた種に対するサポートについて  
「夏休みイベント」や「わたしたちの研究室」で蒔かれた種を「縄文王国」や学校との連携で活かしていきたい。
- 出土品や収蔵品の活用について  
博物館での展示、「タッチ&トーク」といった事業の他に、埋蔵文化財センターとの連携も含め活用している。
- 交通アクセスについて  
路線バスは、地元の甲府市と中央市の負担も加えて運営している。増便は難しい。ナスカ展ではバス会社と協議して、土日祝日に甲府駅からシャトル便を走らせている。路線バス確保は難しい問題、皆様方のご協力をいただきたい。